

2014年（第13次）樹勢調査結果 速報

2014/10月 名勝小金井桜の会 事務局

初めに

本年も東京樹木医プロジェクト(PJ)の協力を得て、名勝小金井桜の毎木樹勢調査を盛夏の8月9日に実施しました。詳細な調査データは近日中に会のホームページに掲載されますが、ここに概要を速報版として纏めましたので、全会員に配布いたします。ご参照ください。今回も新たに16本の枯死木が確認され桜並木全体の衰退は継続しており、象徴的な出来事として毎年春の開花標本木であった小金井橋袂のNo864の桜樹が、残念ながら枯死・伐採されました(下の写真参照)。

なお9月の例会で打合せましたように、今後、調査の詳細な報告書については数年おき(3~5年毎)の間隔で発行することを基本方針としますので、本年はこの”速報”をもって調査報告といたします。

【1】調査月日： 2014年8月9日(土) 午前9:00~(12:00)

【2】調査メンバー： (アンダーラインはブロックリーダー)

第1ブロック 石田精一、石田いく子、田嶋清二、 樹木医：佐々木良典

第2ブロック 小迫悦子、小迫邦彦、池和子、 樹木医：山根慎次

第3ブロック 植竹隆夫、岩間博昭、 樹木医：松岡弘樹

第4ブロック 小沼廣和、日並洋一、北村佳代子、 樹木医：新井孝次朗

第5ブロック 富山日出夫、渡辺ふき子、大崎硬平、 樹木医：安東信

会員=14名、樹木医=5名 合計=19名

【3】調査方法： 一昨年・昨年と同じ(東京樹木医PJ指定の調査票に基づき評点付して評価)

【4】調査風景とトピックス写真：



打合せ風景



No864 枯死・伐採



<参考> No864 4月満開記録



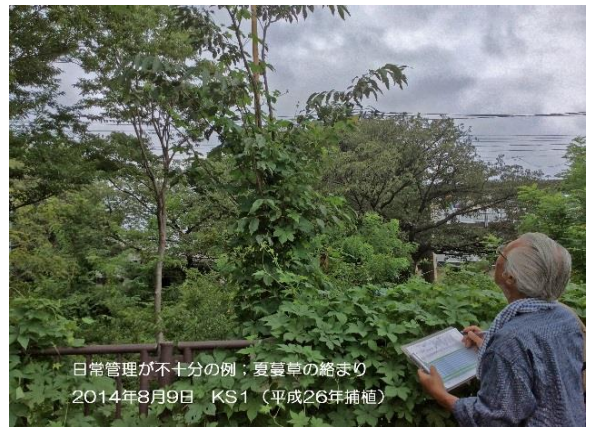
S39 (北上) 枯死



<参考> S39 4月満開記録



日常管理不良の例 1



日常管理不良の例 2

【5】調査結果の概要；

ブロック	2014年 総合評価ランク					計	2013年 総合評価ランク					計	本年枯死	備考
	1	2	3	4	1		2	3	4					
	←状況が良い:状況が悪い⇒						←状況が良い:状況が悪い⇒							
1	0	7	98	10	115	0	3	111	2	116	No161=1本			
2	15	45	86	3	149	2	47	89	3	141	No225、256、 257、263、870、 946=6本	2014年2月 新たに捕植=14本		
3	6	27	93	5	131	3	41	79	3	126	No864、S39(北上)=2本	2014年2月 新たに捕植=6本 No304 切り株から復活		
4	74	64	54	23	215	82	85	48	3	218	No367、729、 S34(2012年植樹)=3本			
5	0	6	68	12	86	0	8	71	11	90	No422、463、 611、642=4本	一部、「毎木調査結果リストの数値」と「樹木医所見の数値」の差異がある。		
合計	95	149	399	53	696	87	184	398	22	691	16本	2014年2月 新たに捕植=20本		
比率%	13.7	21.3	57.4	7.6	100	13	27	58	3	100				

詳細データは名勝小金井桜の会ホームページを参照ください。

URL : <http://koganeizakura.com>

【6】樹木医の所見；

(6-1) 第1ブロック(喜平橋～茜屋橋) 所見

NPO法人東京樹木医プロジェクト
樹木医 佐々木 良典(認定登録第1045号)

1. 調査結果

評価ランク 1	0本	(0%)	
評価ランク 2	7本	(5.9%)	
評価ランク 3	98本	(82.4%)	
評価ランク 4	10本	(8.4%)	
枯損木、欠樹	4本	(3.4%)	合計 119本

調査対象木119本のうち、評価3(不良)のサクラが82%を占めており、評価1(良好)のサクラは見られず、第1ブロックのサクラはすべて生育状態に障害がある。

2. 第1ブロック左岸(五日市街道沿い)のサクラの状況

玉川上水水路沿いに生育するケヤキやエノキの生育が旺盛で、これらにより南側から被陰されていることから、車道上に大きく枝を伸長させた片枝の樹形となっているものが多く見られる。しかし、水路内の樹木については一部伐採が行われており、日照条件の改善が見られる場所もある。

植栽地内を歩行者や自転車が通行しやすいようにアスファルト舗装が施されている。サクラへの影響を最小限とするため、根の切断を極力避け、舗装の厚みを最小限度とするといった配慮が見られるが、サクラは土壌の表層に多くの根が集中するため、その生育に与える影響は軽視できない。五日市街道は車両の通行量が多く、大枝や幹に車両の接触による損傷が見られるものが目立つ。街路樹の場合、道路構造令による建築限界として路面から4.5m以下の大枝は除去することとなっているため、早急に対応が必要である。

3. 第1ブロック右岸のサクラの状況

南側は住宅地であり、ある程度の日照は確保されているが、水路内の樹木とサクラ同士の競合により樹冠は閉塞している。

サクラの根元は歩道となっており、踏圧による土壌固結の影響はかなり大きい。

4. 必要な対策

今回の調査においてナラタケモドキの発生は確認できなかったが、右岸987のヤマザクラについては、急速に樹勢が衰退していることから感染が疑われ、注意が必要である。

ベッコウタケの発生しているものは根株が大きく腐朽している可能性があり、倒木の危険性については精密診断による判定が必要であるが、早急に植替えを検討する必要がある。

建築限界以下の大枝については事故防止のため除去が必要であるが、切断面には確実に殺菌剤を塗布し、人工樹皮による保護を行って腐朽菌の侵入を防止する。

サクラは踏圧により根の損傷、固結による根の伸長制限を受けやすいため、根元への立ち入り禁止、踏み固め防止板の設置や土壌改良等の処置が必要である。

(6-2) 第2ブロック(茜屋橋～小金井橋) 全体所見

樹木医：山根慎次（登録No.1722）

- ・玉川上水のケヤキなど広葉樹との競合や被圧により樹形が傾斜しているものが多い。
- ・傾斜している大枝の一部は大型車両の通行などによる損傷が見られる（今後、腐朽枯損の影響が懸念）。
- ・車道や歩道に沿って生育しているため、安全管理上、倒木・落下のおそれのある傾斜木や枯損大枝など定期的に伐採など植生管理を行うことが重要。
- ・健全木はできるだけ健全な状態が保全できるような植生管理（競合木の剪定、根元保護など）が行われることで長期にわたり良好な生育が期待されるとともに、危険木となるリスク低減も図れるので今後の取組として望まれる。
- ・今季における生育状態の所見としては、猛暑の影響と思われる葉の萎れが全体に見られた。水ストレスが今後どのように影響するのか引き続き経過観察していくことが重要。

(6-3) 第3ブロック(小金井橋～新小金井橋) 所見

樹木医 松岡弘樹

全域に亘り、住民の声に右往左往し、一貫性に欠落した管理保全策がサクラ生育環境の悪化を増進させ、年々、サクラの樹勢は衰退に向かっている。

小金井サクラ堤の健全なサクラ並木育成保全のためには、将来に向けた官民共有の保全育成指針に基づき、官民協働体制の下に管理すべきであり、早急に小金井桜の基本整備指針を策定する必要がある。

■提言

- ・官民共有の小金井桜整備指針策定
- ・桜生育環境の定期的整備の実施
- ・協働作業による環境整備
- ・後継木の育成

■総括

右岸側、左岸側、共に人の踏圧害や施設による根への障害がある。玉川上水に自生した樹木を伐採して日が急に差し込んで日焼け障害を起こし衰弱していた弊害がようやく落ち着きを出ている。特に左岸は新梢を多く出して生き残ろうとする個体と未だ弱り続けているものがはっきり分かれてきたように思われる。今後は小端枯れを起こし樹形を縮めるものの樹冠中央の中大枝か胴吹を萌芽させて生き残ろうとしている個体が多く確認できた。今後の成り行きを観察することが重要である。一方、衰弱し枯死に向かっている個体も少なからずあるのも事実である。これらは日焼けによるものなので幹巻等によって日焼けから守る必要がある。又、新植の衰退、枯死も見受けられるがつつる性植物の除草病害虫から守る管理が必要であるように思われる。

★左岸

自生樹木の撤去に伴い日当たり良好になって、サクラにとっては好条件なのであるが、枝葉が伸びる前に日焼けを起こしているものを幹巻等で保護する必要があるように思われる。日当たり良好になって新植の苗木が良い状態で生育している一方で雑草が伸び小さな苗木に絡みついている障害と、乾燥時期に十分な水分が補給できない状況になっているように思われる。乾燥時期（冬期、梅雨前、夏期）の葉の状態を観察し灌水を怠らないよう留意すること。

★右岸

左岸同様上水側の樹木が伐採されたことにより北側や真上の大枝に急に日当たり日焼けを起こしている。左岸ほどではないものの多くのサクラが衰弱していた。右岸同様の処置が必要と思われるが、伐採から数年の間に胴吹枝を多くだして生き残ろうとする個体も多く見受けられる。来年には評価が1ランク良くなりそうな気配である。

歩道と上水の間に植栽されている桜は左岸ほど弱ってはいないが、雑草対策（特につる性植物）が急務である。

相変わらず歩道と車道の間に植栽されている桜は弱っていて、今後の観察が必要である。

■対策

既存の桜のランク4は回復に時間がかかり過ぎる、その間の倒木や大枝折れの危険が予測されるので早急に対策をする必要があるようである。昨年ランク3は2に回復傾向にある。

定期的の上水沿いの自生樹木を撤去すること。特に外来種であるトウネズミモチや南方の常緑樹であるクスノキは玉川上水に相応しくない樹種なので早急に撤去すること。つつる植物を中心に雑草を除草すること。

サクラの胴吹枝葉はそのままにしておくこと。枯れ枝は剪定すること。ヒコバエは状況によって剪定すること。

*おおむね良くなっているようである。

(6-5) 第5ブロック(関野橋～梶野橋下流歩道橋)所見

2014年8月 第5ブロック担当樹木医 安東信

1. 調査結果

	2014年	2013年	2012年
評価ランク 1	0本	0本	0本
評価ランク 2	6本	8本	3本
評価ランク 3	68本	71本	82本
評価ランク 4	12本	11本	8本
評価ランク外のヒコバエ1本(No. 422)			
新たな枯損木	3本	3本	4本?
合計:	90本	93本	97本?

今年の特徴はコスカシバの潜入や、昆虫による葉の食害が去年と比べて少ない。それにもかかわらず評価ランクは2013年から本数上横ばい状態であり、又枯損木も3本で例年と同じであった。これは、やはり引き続き衰退が続いていることを示している。周辺樹木は成長して、ますますサクラを圧迫して日照環境を悪化させ、踏圧による根の障害(特に南岸)は枝先の枯れを引き起こして大枝の衰退も進んでいる。今年にはベッコウタケの発生が少ないが、これは気象の関係であって、株に発生したキノコの菌糸が消滅したわけではないので安心は出来ない。

2. 提案

- ① 毎年申し上げている通り、周辺木の高さをサクラの主枝より低くして日照環境を改善すること。
- ② 可能な限り南岸のサクラは根元の環境改善に努めること。
- ③ 橋の周辺を起点として、江戸時代の絵に描かれた情景に復元してゆく。

提案理由

- ① サクラにとっては、自分の成長を維持できるだけの日照量と十分に枝葉が張れる空間が不可欠であり、自然状態で、伸長量の大きい接近した周辺木との共存は、非常に困難であり、まして自然形質を多分に残しているヤマザクラの老木に於いては尚更である。
- ② 樹木の根は常に酸素呼吸を行っている。消費した酸素の供給と、放出した二酸化炭素の排出が土の固結で困難になれば、根は弱り、枯れ、腐って、重心が偏って成長した樹木の場合は、雨、風等の自然状態で簡単に倒れることになる。枝葉の状態からその時期を読み取って、事前に手を打つべきであるが、今はその時期が遠くないと思われる。
- ③ 植栽された樹木は人の管理が必要になる。その為にはより多く人に興味をもたれ又好まれなければならない。法事や祭りが長年それなりの出費を見込みながらも続けられるのは、無意識ではあってもそれらの中に歴史を含んでいるからであって、かつて自分たちの祖先がやってきたことをみんなでそれなりの意味を持ってやってゆくことは好ましい。その心を引き出して予算と労力を生み出しては如何かと考える。

以上